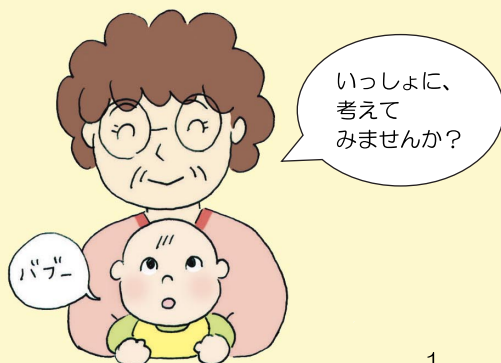




ご家庭で、子どもに
テレビやDVDを見せたり、
ゲームで遊ばせたりするときの
「上手なつき合い方」の
ご提案です。



目次

あなたとメディアのつき合い方は？	1
家庭での取組例①～⑨	3～11
すべての皆さまに	12
県内の子育て支援情報・携帯サイト（二次元バーコード）	13
あなたなら、どんなことから始めてみますか？（変えるカエルで始めよう！）	15

小さな子ども向けのご提案は、**テレビ**や**ゲーム**が中心ですが…
まずは、あなたの今の生活をチェック！

あなたとメディアの つき合い方は？

ここは、大人のふり返り。
ケータイや**パソコン**も含めて
考えてくださいね。

- 朝起きると、とりあえず**テレビ**をつける。
家では**テレビ**をつけたままのことが多い。



- 子どもと一緒にいても、**ケータイ**を
長時間いじっていることが、よくある。



- チャット**や**ブログ**、**ネット**や**ゲーム**を
していると、時間を忘れてしまう。



どれも、コミュニ
ケーションの範囲を
広げてくれたり情報
収集に役立ったり。

つい、使い過ぎて
しまいますよね。

でも、子どもとの
コミュニケーションも、
たくさんしてますか？



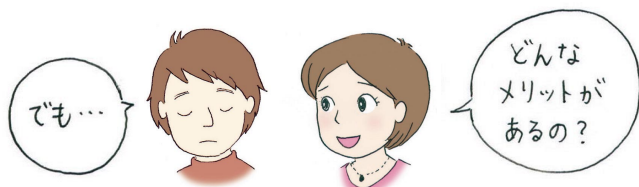
大人だってはまり
やすいメディア。
子どもだって興味
津々。

でも、
使い方によっては、
子どもの生活や
行動への影響も
心配されています。

だからこそ、**バランス**が重要なんです。

特に、乳幼児期から小学校低学年期の子どもは、
保護者や家族の“みちびき”が重要な時期。

子どもが、
メディアと上手につき合えるようになるために、
ご家庭で、取り組んでみませんか！



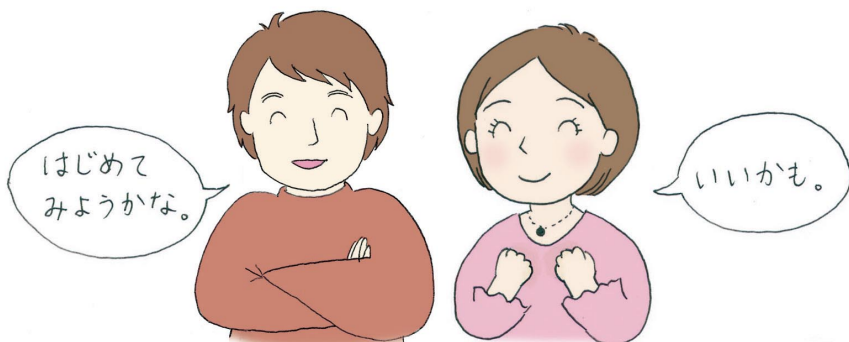
目指すのは！



子どもが、自分の時間の使い方を
自分でコントロールできるようになること。



子どもが、自分の気持ちを豊かに表現したり
他者とコミュニケーションできるようになること。



子ども部屋に、 テレビやゲームを置かない。

子ども部屋に置くことで、子どもが一人で、子どもだけで過ごす時間が増えてしまい、子どもの成長に好ましくありません。

“他者と一緒に見たり遊んだりして、コミュニケーション力りよくをはぐくむ”というテレビ、ゲームの良い面が活かされにくくなります。

保護者が内容を知る機会や、内容について子どもに話をする機会も減ってしまいます。



家族は、最も小さくて大切な“コミュニティ”です。

テレビやゲームを一緒に楽しむことも含めて、家族で多様な“体験”を共有していますか。



テレビもゲームも、
いろいろな楽しい体験の
ひとつなんですよ。

テレビは、ひとりぼっちで見せない。

「忙しくて、子どもがどんなテレビやゲームに接していたか思い出せない…」なんてことはありませんか。

子どもが接しているテレビやゲームの「内容」に関心に向けて、子どもと一緒に楽しみましょう。



同じものを見て、“楽しい”“悲しい”の感情を共有することで、話題が広がり、子どものコミュニケーション力りよくが豊かにはぐくまれます。

“一緒に泣いたり”“一緒に笑ったり”を楽しみましょう。

テレビやゲームは、子ども向けでなくてもOK。

大人が好きなものには、子どもも興味をもつもの。

時には、大人の見たい番組も一緒に見てみましょう。



内容や時間は、親がリード。

子どもにふさわしい内容や、バランスのよい接触時間は、子どもの生活全体、成長全体を見ながら考えていくことが大切です。



特に小さな子どもの場合、まだ判断力がないので、内容や時間は保護者・家族が決めるのがよいでしょう。

「テレビやゲームは、宿題やお手伝いが終わってから」など、生活にリズムが生まれるような見方、遊び方を考え、「お約束」にするのもよいでしょう。



いろいろな遊びを、勧めよう。

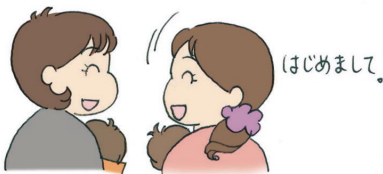
子どもの関心が他の遊びや活動に向けば、自然と、テレビやゲームの時間は適度な範囲内になるものです。

保護者・家族が、外遊びや本の読み聞かせ、お絵かき、ままごとなど、多様な遊びや活動の予定を積極的に入れていきましょう。

テレビやゲーム以外にも、好きなことを見つけてあげましょう。



とある子育て支援センターでは…



ぜひ、お住まいの市町村のホームページや広報紙などをチェックしてみてください（この冊子の13ページもご覧くださいね）。

子育て広場（名称はさまざまです）などの子育て支援の場や、親子向けイベントを開催している市町村や育児支援団体もあります。

テレビの見過ぎ、ゲームの遊び過ぎを 子どもに考えさせる。

子どもも4歳くらいになると、難しい話もある程度理解できるようになります。

子どもの理解力に合わせながら、テレビの見過ぎ、ゲームの遊び過ぎの悪い点などについて、話をしましょう。

モニター画面を見ますから、長時間の視聴は、視力への影響が心配されます。

また、接する時間が長くなれば、その分、身体をつかった遊びの時間は、減ってしまいます。



保護者・家族が見せたくないテレビやゲームを子どもが見たがる場合でも、一方的な制限ではなく、なぜ見たいのか遊びたいのか、子どもと話をしましょう。

見方や遊び方のルールを決めるなどで、子どもの気持ちを尊重してあげられないかも考えてみましょう。

「暴力は、いけないこと」と伝える。

暴力シーンには十分に注意し、見せる場合でも、①子どもだけで見せない、②「暴力は、現実の社会ではしてはいけないこと」だとしっかり伝えましょう。

特に低年齢期の子どもには、極端に多くの暴力・残虐シーンを含むテレビやゲームにふれさせないようにしましょう。

幼児の場合、他の年齢層よりも強い影響を受けるとい研究結果や、恐れや不安の感情を高め、それがトラウマになるとの研究結果もあります。



ここにマークが表示されています



家庭用ゲームソフトには“年齢別レーティング制度”があり、表現や内容（残虐性・性的描写など）から対象年齢がパッケージに表示されています。

- A…全年齢を対象とする
- B…12歳以上を対象とする
- C…15歳以上を対象とする
- D…17歳以上を対象とする
- Z…18歳以上のみを対象とする

必ず確認してください。

親だって、ガマン。

子どもは、大人の見るもの・することに興味をもちます。

見せたくないテレビや遊ばせたくないゲームは、保護者・家族も、子どもの前では見ない、遊ばないようにしましょう。

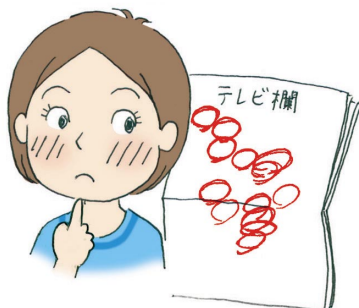


子どもは、気づかぬうちに保護者・家族の意識や行動から影響を受けています。

大人も、時々自分のメディア・ライフを振り返ってみましょう。

子どもに見せたくないテレビや遊ばせたくないゲームは、保護者・家族も見ない、遊ばないのがよいのですが、せめて、子どもの前では見ない、遊ばないようにしましょう。

今日見た番組に
赤マルつけてみたら、真っ赤！
…ちょっと見過ぎ？



テレビ、ゲームのない日をつくり、 家族で話す、考える。

テレビを見ない、ゲームをしない日や時間をつくるなどして、家族みんなで日ごろのメディアとのつき合い方を振り返る機会を持ちましょう。

一緒に外遊びを楽しんだり、ゆったり食事をしたり、子どもとのコミュニケーションを楽しみましょう。

家族でメディアの良い面、悪い面を話したり、“メディアとの上手なつき合い方”を見つけませんか。



お休みの日の朝ごはんは、
我が家のノーテレビタイム

ノーテレビデーやノーゲームデーに取り組んでいる地域や学校もあります。

一定の日・曜日を決めて一斉に取り組んだり、家庭ごとに日を決めて取り組むことを勧めたり、方法はさまざまのようです。

「成長にプラスかな？」の視点で選ぶ。

一歩進んで取り組みたい方は、「成長にプラスになるような内容かどうか」「創造性を養うような内容かどうか」などを意識しながら、テレビやゲームを選んでみてはいかがでしょうか。



保護者・家族が漫然と選ぶのではなく、「長い目で見て子どもの成長にプラスになる」ことを意識することは、“メディアとの上手な付き合い方”のひとつではないでしょうか。

望ましい内容は、いわゆる教育教材に限りません。

冒険、自然体験、歴史、疑似体験など、各家庭の考えで、その子どもに望ましいものを見つけてあげてください。



次代を担う子どもたちの、健やかな育ちを願う

すべての皆さまに

多メディア時代だからこそ

子どもとの
コミュニケーションを
大切にしよう。

大人も子どもも、
メディアについて、
知ろう。考えよう。
学ぼう。

子どもたちに
生身の身体を通した
遊び体験、自然体験を
積極的にすすめよう。

* 県内の子育て支援情報・携帯サイト *

神奈川県
子育て家庭を
応援するまちづくり
推進事業
〈設備・サービスの情報〉



私たちは子育てを
応援しています



厚木市※
(子育て)



綾瀬市※
(イベント情報)



伊勢原市※
(施設情報)



★子育て支援情報★



大井町※
(生活情報)



小田原市※
〔やさしいまなざしで
子育て応援！〕



※は市町トップページ等が表示されますので、市町名の下にカッコ書きされたタイトルのページにアクセスしてください。

横浜市
子育て家庭応援事業
『ハマハグ』



平塚市※
(乳幼児情報)



相模原市※
〔くらしの情報
(子育て)〕



鎌倉市
かまくら子育て
メディアスポット



紙面の都合上、携帯サイトで子育て支援関連の情報を提供している県内市町を掲載しています(2010年1月現在)。また、各携帯サイトでは順次情報を追加しています。

県や市町村では、携帯サイト以外にも、インターネットやメールマガジン、広報紙等で子育て支援情報をお知らせしていますので、詳細はお住まいの市町村にお問い合わせください。

この冊子に関する問い合わせ先(神奈川県青少年問題協議会 事務局)

神奈川県青少年課

電話 (045)210-1111 (代表)

所在地 神奈川県横浜市中区日本大通1 〒231-8588

ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/seisyonen/index.html>

現代の私たちは、大人から小さな子どもまで、テレビやビデオ、ゲームなどをはじめとする「メディア（*）」に日常的に接しています。

「メディア」は、コミュニケーションの範囲を広げ、学習や情報収集にも役立つなど、とても便利な道具です。けれども一方で、低年齢期から接し続けることに対しては、生活や行動などへの影響も心配されています。

そうしたメディアの「両面性」を考えると、子どもたちが「メディアについて正しく理解して適正・有効に活用する能力」、いわゆる「メディア・リテラシー」を身につけていくことがとても重要です。

子どもたちが、基本的な生活習慣などとあわせて、メディアとの望ましい関わり方も身につけていくように、保護者や家族だけでなく、子どもに関わる全ての関係者が、ともに考え、主体的に取り組んでいくことを期待しています。

2010年3月

平成20・21年期神奈川県青少年問題協議会

*メディア…この冊子では、主に、低年齢期の子どもにとって身近なテレビ、ビデオ（DVDを含みます）、家庭用ゲーム機などを指しています。



神奈川県青少年問題協議会

地方青少年問題協議会法に基づき、青少年の指導、育成等に関する総合的施策の重要事項について調査審議を行う知事の附属機関（昭和28年設置）です。

知事が会長をつとめ、県議会議員、学識経験者や、関係行政機関職員等によって構成されています。

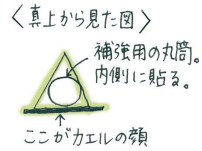
あなたなら、どんなことから始めてみますか？

♪ 変えるカエル のつくり方 ♪

1 カエルの身体に「取り組むこと」を大きく書きます。



3 補強用の丸筒をつくり、台座(身体)の内側に貼ります。



2 カエルを切り取り、三角柱の台座(身体)をつくりま



4 テレビの近くなどに立てましょう。(テープで固定するとGood!)



のりしろ

補強の丸筒用の紙
(線に沿って切り取ってご使用ください)

変えるカエルで
始めよう!

<うしろから見た図>



切り取って使ってくださいね。

のりしろ

やまあり

やまあり